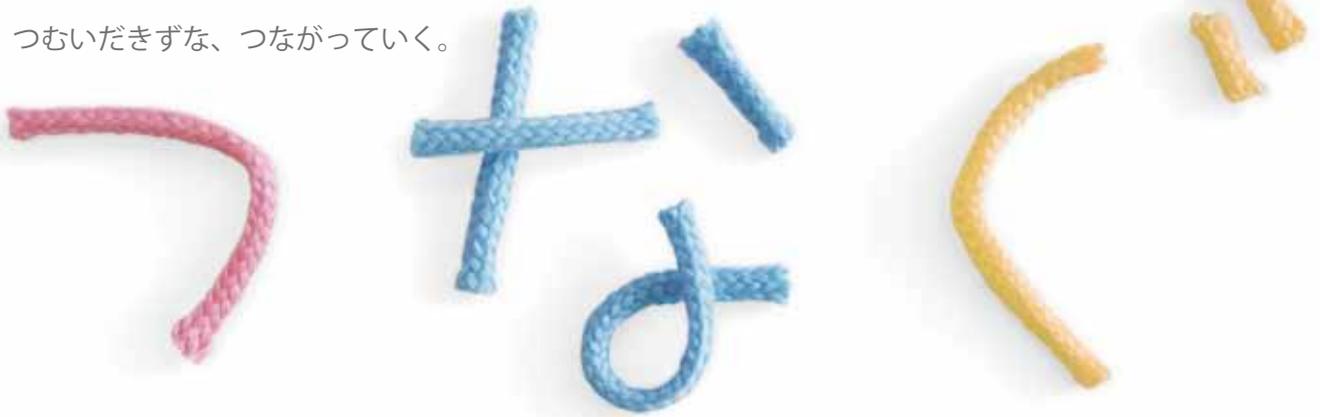


つむいだきずな、つながっていく。



伝統を「つなぐ」 子どもたち

～麓小学校(山之口町)～

約300年の歴史を持つ山之口麓文弥節人形浄瑠璃。15年前に人形浄瑠璃サークルが結成された麓小では、毎年5・6年生が保存会員のときには厳しく、ときには温かい指導を受けながら、1年後の公演に向けて伝統の技を磨いています。



プロフィール

高木 かおる

Kaoru Takagi

1965年生まれ。都城市早鈴町出身。

高校時代に出会った朝夫人との間に2男4女。長男（第2子）が生まれたときには、当時としては珍しい育児休暇を取得。現在、県外に住む長女を除く子ども5人と夫人、実母、実兄の9人で暮らす自宅では、朝食の準備と洗濯物干しが日課という。趣味は読書。

長女が小学生だったときにクラスの会計をしたのがきっかけで、PTAの世界へ。南小学校PTA会長時代の平成17年に都城市PTA連絡協議会会長に就任。昨年からは宮崎県PTA連合会会長を兼務する。

多忙な会長業務をこなしながら、市内の保育園で副園長として日々子どもたちとふれあう生活を過ごしている。

お忙しい中、突然の取材にも関わらず
快く受け入れて下さった高木会長。

お話を聞きながらご経験の一つ一つを
大事にしていらっしゃる人柄がよく伝わってきました。
おなじ子どもをもつ親として、いま出来ることは…？
自分自身を振り返る良い機会をいただきました。
ありがとうございました。

子どもは 社会のたからもの

—子どもの話が出たところで、高木家の子どもさんたちは、お父さんとよく話しをするに耳にしたのですか？

そうですね。子どもとの会話は大切にしています。我が家には子どもが6人いて、長女はすでに県外に出ています。ちよつとしたことで、時間も考えずによく電話をします。子どもには成長過程において年齢に合った事を伝えたいと思っているので、最近は長男とも男同士で遅くまで話をする時間が増えてきました。

我が子を大事に思うからこそ、その思いが地域の子どもたちへもつながって、地域の子どもたちのごとも大事にしたいと思つのかもかもしれません。子どもは社会のたからものです。その子どもたちが、いつでも安心して帰れる場所（家庭・地域）を整えることが私たち大人の役割ではないでしょうか？

弱さでつながる ことができる社会へ…

—心がホッ！と温かくなるようなお話をどうもありがとうございます。最後になりましたが、私たち子育てまっただ中の保護者に向けて何かメッセージがありましたらお願いします。

はい。今、成果だけを考える社会になっていますが、成果へたどり着くまでの過程の中で、弱音を吐きたくなる時がありますよね。そういった時、弱音を吐いても共感してくれる人が周囲にいれば、成果までの道のりの中の苦しみは、楽しみへと変わるのではないのでしょうか？

弱い部分を見せても、それを受け止めてくれる人（共感者）が近くにいれば、人と人の絆も深まり、ますます強いつながりへと発展していくはず。そんな弱さでつながっていきけるような社会であればいいなあと願っています。

子どもをまんやかに…

PTA活動の原点は、愛する子どもたちのために、私たちが責任ある大人として何が出来るのかを、前向きに探求し続けることだと思います。

こんな時代だからこそ、立場を超えて受け継がれたバトンを次の世代に引き継ぐために、できる限りの努力を惜しまず『子どもをまんやかに手をつなぎあえるPTA活動』を大切にしていきたいと強く思います。

tsukuru



tsunagu

「つなぐ」 過去と今、そして未来へ…

『つなぐ』とは、名詞「つな(綱)」が動詞化した言葉で、

「犬をつなぐ」「心をつなぐ」「手をつなぐ」「望みをつなぐ」…など、日常的に使われている言葉です。

創立60周年を迎えた昨年、都城市PTA連絡協議会(市P連)では、市内55の単位PTAと13,000人あまりの会員の絆をつなぎ、また、市P連の役割を今一度見直しながら、過去と現在そして未来へとつながるPTA活動の充実と発展に努めたい! という思いをこめ、60周年記念誌の表紙をこの言葉で飾りました。

そして今回、この市P連の広報紙へと引き継がれた「つなぐ」。いつも何気なく使っている「つなぐ」という言葉への思いやそこから生まれてくる思いを、市P連の高木かおる会長へ直撃インタビューしました。

出会は財産であり、
やがて自分の貯えとなる

— 県P連、市P連の会長として多忙な中、現在保育園の副園長としてたくさんの人と関わるお仕事をしていきますが、ずっと保育園でお仕事をされたのでしょか?

いいえ。14年前まで、埼玉県で知的『しょうがい』者の就業支援の仕事をしていました。就業のサポートをするために、一緒に出勤し、一緒に仕事をするわけですが、その中でいろいろな人との出会いがあり、さまざまなことを体験してきました。

— 当時の思い出の中で、今につながるエピソードがあればお聞かせください。

ある日、紹介先から「〇〇さんが出勤していません」との連絡が入り、探しに出かけたことがありました。出勤ルートをはじめいろいろな所を探しましたが見つからず、少々あせりも出始めました。彼との会話の中で出てきたある河原を思い出しました。彼が好きな場所のひとつだと言っていたことを思い出し、そこに行くのと、彼はその場所に座り、ゆっくりと流れる川面を眺めています。しばらく二人で空と川面を交互に眺めながらいろいろな話をしたことを懐かしく思い出します。

みなさんもお存じの通り、『しょうがい』を持つ方は、ある種の優れた力を持っています。それが計算力だったり、記憶力だったり、もの作りだったり…人によってさまざまですが、私はこの時、相手をよく知ること、知るためにはしっかりと向き合って話を聞くことの大切さを学びました。

この職場で出会った多くの人たちとふれあう中

で学んだ事は、現在の仕事やPTA活動へ携わる原動力となっています。

— PTA活動に携わったきっかけをお聞かせください。

小学校の学級Pの会計をしたのが始まりです。その後、地区の子ども会に携わり、PTA副会長、PTA会長を経て現在に至ります。かれこれ13年在籍していますね。(笑)

— 長く関わられていらっしゃるんですね。同じ会員として頭が下がります。

いえいえ。ただ単に「子どもの喜ぶ顔が見たい!」という思いが強くて…「子どもを喜ばせるためには、大人も楽しみながら関わりましょう!」という私の考えに共感してくださる仲間(PTA役員)と一緒にだっただけだからやって来れたのです。

— 単位PTA活動に関わってのご感想は?

そうですね。私の知らないわが子の様子(良い事も悪い事も)を、PTAの仲間から伝えていただいた時は、心から「ありがたい!」と思いました。

また、地域の子どもたちを知る事ができたので、子どもたちへの声かけ(励まし)を心がけたところ、いつの間にか子どもたちのほうから声をかけてくれるようになって、今でも時々、職場へ顔を出してくれる子もいます。「うれしい!」と感じると同時に、「何かあったかな? 話聞くんよ!」と世話やき魂が目覚めます瞬間でもあります。こうして子どもたちとのつながりは続いていますね。これまでに体験してきたことや、たくさんの人との出会いは、私の財産となって、今私の引き出しの中に蓄えられています。

市P.T.トピックス

子どもと向き合っていますか？

PTA会長・校長合同研修会

都城の子どもたちが心身ともにすこやかに育つ環境をつくるため、家庭と学校の共通認識を深めていこうと、6月30日、PTA会長・校長合同研修会が開かれました。

今年、(株)ヤマトボーン社長の坂元耕三さんが「生き残る力(家庭の絆・地域の絆)」と題し、現代社会における心の教育の大切さや「真の子育て」について、自身の体験も交えながら講演。厳しい時代を生き抜くためには、「子どもや家族と時間をかけてしっかりと向き合うこと、ベクトル(生き方の方向性)を共有できる絆をつくっていくことが大切」という坂元さんの話に、参加者も熱心に聞き入っていました。

よりよいパートナーシップを目指し

市長・教育委員会との教育懇談会

単位PTAや地区PTAが抱える課題について意見交換し、子どもたちの健全育成に必要な行政・学校・PTAのよりよいパートナーシップを構築していくこと、市長・教育委員会と市P理事との教育懇談会が8月26日に開催されました。

懇談会には、長峯市長、村吉市議会議長、内田教育委員長、玉利教育長ら関係者12人が出席。市の教育重点事項の紹介に続き、事前に地区PTAごとに取りまとめた課題・質問事項に対する回答が説明されました。また、懇談ではPTA・行政・学校に地域も含めた四者が相互理解し、協定して教育を支えることが重要、などの意見などが出されました。



企業家としてのかたわら、さまざまな教育問題にも取り組んできた体験を話す坂元さん



行政とPTAの役割について、活発な議論が交わされた懇談会の様子

単P.リレーエッセイ

「学校林を通して深まった絆」

小松原中学校PTA会長 宮脇克広

本校は、安久町の金御岳の南側に学校林を所有しています。卒業生も知る人が少なく、在校生に至っては「学校林って何？」と言うほどです。そこで、昨年の立志式の学校行事として、学校林まで歩いて往復することになりました。

し、豚汁を食べて、自然を満喫しました。

本校では、今年もこの学校林訪問を10月16日に計画しています。今後も先輩方が残してくれた樹齢50年の学校林を通して、同窓会の絆が深まっていくことを願っています。



立派に成長した学校林のすぎを前に、豊かな自然を満喫する子どもたち

vol. 1

都城・旭川 児童生徒 ホームステイ交流事業

都城
SOUTH



「日常を離れ、自然環境も言葉も習慣も異なる場所で、子どもたちいろいろな体験をさせてあげたい！」そんな都城と旭川の保護者の熱意で実現したこの事業も、今年で23回目を迎えました。

「夏は旭川の子どもたちが都城へ。冬は都城の子どもたちが旭川へ」を合言葉に、これまで延べ68人の子どもたちが互いのまちを訪れ、さまざまなことを学び、体験しながら交流を深めてきました。

そして、この夏も旭川からやって来た6人の子どもたち。親や家族と離れての一人旅に、最初は少し不安そうだった子どもたちも、出迎えた都城の7人の子どもたちとすぐに打ち解けてくれました。さて、真夏の都城を舞台にした今年の交流は、子どもたちにどんな出会いや経験、思い出を残してくれたのでしょうか？

旭川
NORTH



荒武 諒河くん
(都城)
受け入れには不安はなかったし、来てくれて楽しい。一緒に海に行きたい。

榎本 千廣くん
(旭川)
ホストファミリーが優しい。都城は暑いけど、地鶏がおいしい。

清野 航矢くん
(都城)
会う前はどんな人だろうと心配したが、会ったら面白い人だった。

中村 隆介くん
(都城)
どんな人が来るか、楽しみにしていた。

平舘 拓歩くん(旭川)
言葉の違いと蒸し暑いことに、びっくりした。でも、一人旅は超楽しい！



参加者の声

7月26日から30日までの5日間、旭川からやって来た6人の子どもたちは、ホストファミリーとともに宮崎の夏を満喫しました。参加者の皆さんに、互いの印象や都城の感想を聞きました。

村脇 星さん(都城)
すぐ仲良くなれたので、1月の旭川が楽しんだ。



大西 真央さん
(旭川)
宮崎はすごく暑いけど、有名なところがたくさんあるので楽しい。

前田 志野さん
(都城)
楽しみにしていたので、うれしいし、楽しい。

洪谷 典子さん
(旭川)
すごく楽しい。宮崎の海で泳いでみたい。



高木 ゆりさん
(都城)
すぐ友達になれて、うれしかった。冬の旭川行きが楽しみ。

下澤 咲奈さん
(旭川)
旭川とは、気温と屋根が違うと思った。すぐ仲良くなれてよかった。



中村 文音さん
(都城)
旭川には、竹がないと聞いて、びっくりした。旭山動物園に行きたい。



山田 紗也さん
(旭川)
都城は、すごく暑い。海に行ってみよう。

PTAにできることは？

都城市PTA連絡協議会の21年度スローガンである「今を生きる子ども達の声に耳を澄ませ、子どもをまんやかに、ともに育ちあうPTA活動を推進しよう」。市内の各単位PTAではこのスローガンを具現化しようと、さまざまな取り組みがなされています。

大切な子どもたちを「まんやかに」した活動とは？今回は、2つのPTAの活動を通して、私たちにできることを考えてみました。



子どもをまんやかにした結びつき

石山

小学校PTA

地域との結びつき

都城と宮崎を結ぶ国道10号が地区の中央を走る石山地区。交通量の多い通学路を通って登下校する児童の安全を確保するため、同地区では高齢者クラブを中心とした有志の「見守り隊」が平成17年に発足し、児童

の見守り活動を行っています。

また、学校周辺の竹を伐採するなど地域の壮青年団が環境整備に協力しているほか、食生活改善推進委員による「食についての講演会」開催、奴踊り保存会による踊り指導など、地域にあるさまざまな団体や、日ごろから独自の活動や学校行事への協力を通じて、石山小学校の子どもたちやPTAとのしつかりとした結びつきをつくっています。

体験活動に生活リズム向上をプラス

「地域を学び、地域に親しむ」ことを目的に、「リメンバー石山」「田植え」「十五夜相撲」「すこやかフェスタ」など、さまざまな活動を各種団体の協力や指導のもと毎年実施してきた石山小学校PTA。「子どもの生活リズム向上支援推進事業」のモニター団体に選ばれたことをきっかけに、昨年度からこれまで地域住民の協力による体験活動であった「リメンバー石山」や「すこやかフェスタ」



をPTAが主体となる新たな取り組みへと転換しました。

活動を通じて子どもたちが学ぶこと

異学年間の交流と貴重な思い出づくりを目的に、小学5・6年生、中



学1年生を対象に2泊3日の日程で実施されている「リメンバー石山」。

早朝ラジオ体操や食生活改善推進委員の指導を受けながらの食事づくりなどを通じて、子どもたちに規則正しい生活リズムを体感させるとともに、地元にある観音寺での清掃作業や観音さくら温泉での植栽作業、香禅寺奴踊りの練習、高齢者クラブとの交流などを通じて、地域の伝統文化やそこで暮らす人を知り、地域に貢献することの大切さを学ばせる機会にもなっています。

また、昨年度はもちつき大会を行った「すこやかフェスタ」。地域の幼稚園や高齢者も集い、三世代が交流する場となったほか、小学校や幼稚園の子どもたちが手間暇かけて育てたもち米とサツマイモを使うことで、子どもたちに生命の源となる食べ物育てることの難しさ、大変さを実感させる取り組みにもなっています。

「地域で子どもを育てる」

地域にあるさまざまな団体と保護者が協力しながら、子どもたちに貴重な体験をさせることで、豊かな感性とふるさとを思う心の醸成を図っている石山小学校PTA。「地域で子どもを育てる」というPTA会長岩崎公平さんの言葉に集約されている大人たちの思いが、地区を挙げての活動として実践されています。

山田

小学校PTA

山田の輝き 子宝を守れ！

全国各地で子どもが被害者となる殺人、強制わいせつなどの犯罪が発生し、凶悪犯罪に発展する恐れのある声かけ事案も増加傾向にあります。山田町も例外ではないと、山田小学校PTAでは平成16年に緊急保護者会議を開催し、子どもの見守りについて真剣な協議を行いました。

当時、山田町ではすでに民生委員児童委員や自治公民館長、ボランティアなど総勢62人の見守り隊が発足し活動していましたが、長時間に及ぶ保護者会議の席上で「自分たちの子どもの安全は、自ら進んで守って行くんだ」という意見が出され、学校に関わる大人が一丸となり、保護者による下校時の安全パトロールがスタートすることになりました。



愛情パトロールの実施

平成17年1月から始まったパトロール。校区内を2区域に分け、2台の車にそれぞれ2人ずつが分乗して、午後3時半から午後5時まで各区域内を巡回する方法で行われており、1日の走行距離は約30キロに及びます。

パトロールは保護者全員（19世帯）で行う輪番制で、各学期に1度は当番が回ってきます。担当者は自家用

車に拡声器とステッカーを装着し、下校途中の子どもたちに声をかけながら巡回します。

スピーカーから響く「こちらは山田小学校PTA安全パトロール隊です。山田小学校の子どもたちが凶悪な犯罪や事件、事故に巻き込まれないように、私たち山田小学校PTAは安全パトロールを行っております。山田地区の皆さん、私たちの子どもが下校する姿を見かけられまして、ちょっと結構ですから、見守っていただければありがたいです。今後とも安全パトロールを続けてまいりたいと思います」という声は、子どものことを深く思いやる「母親」の優しい言葉、そして頼もしい力強さを秘めた「父親」の言葉で伝えられ、子どもたちに深い愛情で見守られているという安心感を与えています。

継続は力なり

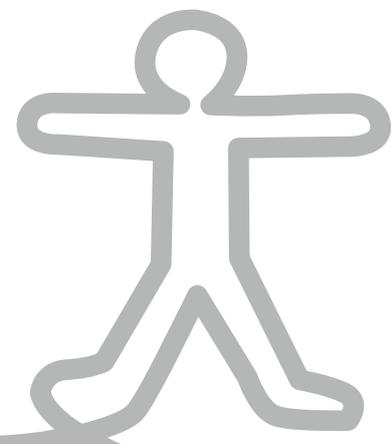
その力の源は子どもの笑顔

今年で4年目を迎える安全パトロール。保護者は仕事の合間に、ま

たは仕事を休んで参加します。両親が忙しい時は、おじいさんやおばあさんがかわいい孫のためにと、喜んで出勤することもあるそうです。また、学校の先生も子どもたちに不審者などの特徴を詳しく伝えるなど、下校時の防犯対策に積極的に取り組んでいます。

「歴代PTA会長が誇りとして引き継いできた大切な自主活動。使命感を持ち、何よりも子どもの純粋な笑顔を守り続けるために頑張ります」と話す現PTA会長の村岡博之さんの言葉には、子どもたちは自分たちで守るといふ、山田小学校PTAの純粋で強い意志が込められています。

「子どもをまんなかに」





お知らせ

「第51回宮崎県PTA研究大会」

～日向・東臼杵・西臼杵大会～

- 期日 12月5日(土) ● 会場 日向市文化交流センター
- 内容 研究発表・講演

「地域医療市民フォーラム」

- 期日 11月28日(土) ● 会場 都城市総合文化ホール
- 内容 講演・パネルディスカッション

市P連カレンダー

[平成21年～22年]

平成21年

- 5月9日 平成21年度市P連総会
- 5月23日 9:30～12:00
広報担当者講習会
- 6月20日 9:20～12:00
第28回学年委員長研修会
- 6月30日 18:30～19:45
PTA会長・校長合同研修会
- 平成21年7月26日～30日
第23回都城・旭川児童生徒
ホームステイ夏季交流
- 8月26日 18:30～20:00
市長・教育委員会との教育懇談会
- 9月19日 9:30～12:00
第35回女性会員研修会
- 10月14日 18:30～20:00
PTA会長研修会

平成22年

- 平成22年1月7日～11日
第23回都城・旭川児童生徒
ホームステイ冬季交流
- 2月11日 9:20～12:00
第50回都城市PTA研究大会

○その他、年間10回の役員・理事会

POST

事務局だより

市P連事務局の山田忠夫と隈元美代子です。力不足ですが、綿密な計画のもとに事業の円滑な運営・実施の下支えが出来るよう、精一杯努める所存です。また、多くの皆様の各種事業へのご参加が何よりも励みになります。これからもご協力をよろしくお願いいたします。



編集後記

今年度発足した市P連編集委員会ではより多くの会員の皆さんに市P連の活動を知っていただくため、4人の外部編集委員と協力し、市P連新聞を広報紙「つなぐ」としてリニューアルしました。ようやく編集を終え、「つなぐ」を送り出せた各委員の今の思いは……？

外部編集委員

今回、初めて編集に携わり、都城・旭川交流事業を担当。インタビュアーにも、素直に答えてくださいました。皆さん、読んでください。

土屋 裕子

久しぶりに「生みの苦しみと喜び」を味わいました。思い描いているものが形になっていく感動を多くの方に味わって欲しいなと思います。

鶴田 智子

子どもが昨年中学校を卒業しましたが、編集委員として今年も楽しく活動させてもらっています。

前田 美保

初めてOBの立場で新聞作りに参加。若い委員さんたちから刺激を受け、退化した脳も活性化。いい勉強をさせてもらいました。

山田 文字

編集委員

初めての広報活動戸惑い多し！宿題に頭抱える子供の気持ち、分かる気がする、今日このごろ……

竹田 佐代

初めて編集委員という仕事をさせていただきました。見ることも、聞くことも、初めてのことばかりで、いい経験になりました。

西川まり子

ここは創造性開発の場です。常に子どもたちの輝きを見守り続けている委員の皆さんに出会えたことに感謝します。

横川基智造

表紙を見て、「おや!!」と手にとっていただけのなら、第一目標達成です。次は文章に目を落としていただけのよう、精進を続けていきます。

横山 哲英

